

2026年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)  
記述式問題 解答例

学部・学科:2月7日 神学部 神学科

1

問2 ガブリエル

問4 創世記

問5 十戒

問14 ミサ

問15 エルサレム(イエルサレム)

2

採点基準として、以下の点について言及していることが望ましい。

・暴力と宗教の関係性。暴力を正当化するために宗教が悪用されることがあるが、真正な宗教は平和構築に有益であるということ。

・キリスト者にとって平和構築のために働くことは、イエス・キリストから受けた召命であること。

・キリスト教は人間が神の似姿として創造されたと信じるが故に、人間の尊厳を重要視すること。また聖書においては、暴力によってではなく愛をもって真理を語る事が尊ばれており、平和と正義そして和解の実現が不可分なものとして呼びかけられていること。

・祈りと霊性は人間の内面に深く関わり、一人ひとりの内面を変容させる力を持つこと。そのため、神との正しい関わりによって信仰者は平和の構築者へと変えられ、それにより世界に和解と癒やしが実現可能になるということ。

2026年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)  
記述式問題 解答例

学部・学科:2月7日 神学部 神学科

3

採点基準として、以下の点について言及していることが望ましい。

- ・キリスト教において本当の意味での人間らしさは、愛を生きることによって実現されると考えられていること。また、このような「本当の意味での人間らしさの実現」と「社会の真の発展」は、密接に関わり合っているということ。
- ・まず神ご自身が愛ゆえに人間とかかわっており、その神からの愛に対する応答として、人間は愛するよう招かれるということ。
- ・キリスト教的愛は、他者とその権利を尊重し、そのために自分の犠牲を否まないということ。そのような愛、すなわちエゴイズムや個人主義の対極にある「人類愛」を世界に広める必要性をキリスト教が説いていること。逆に自己本位で物質主義的な生き方は、個人の心も、社会全体も滅ぼしてしまうということ。
- ・キリスト教において、正義は愛を無視して語れないということ。連帯を基本的な態度とする「愛の文明」においてこそ、真の正義や平和が実現可能であるということ。
- ・現実の世界や社会において愛を軽視しながら、神との愛の関係を真に生きることができないということ。また同時に、人間関係や社会関係における愛の実践も、神との愛の関係においてこそ本当の意味で実現が可能であるということ。